

第1学年3組 道徳の時間指導案

平成15年9月22日(月) 第5時限 指導者 玉置 崇

1 授業づくりに際して

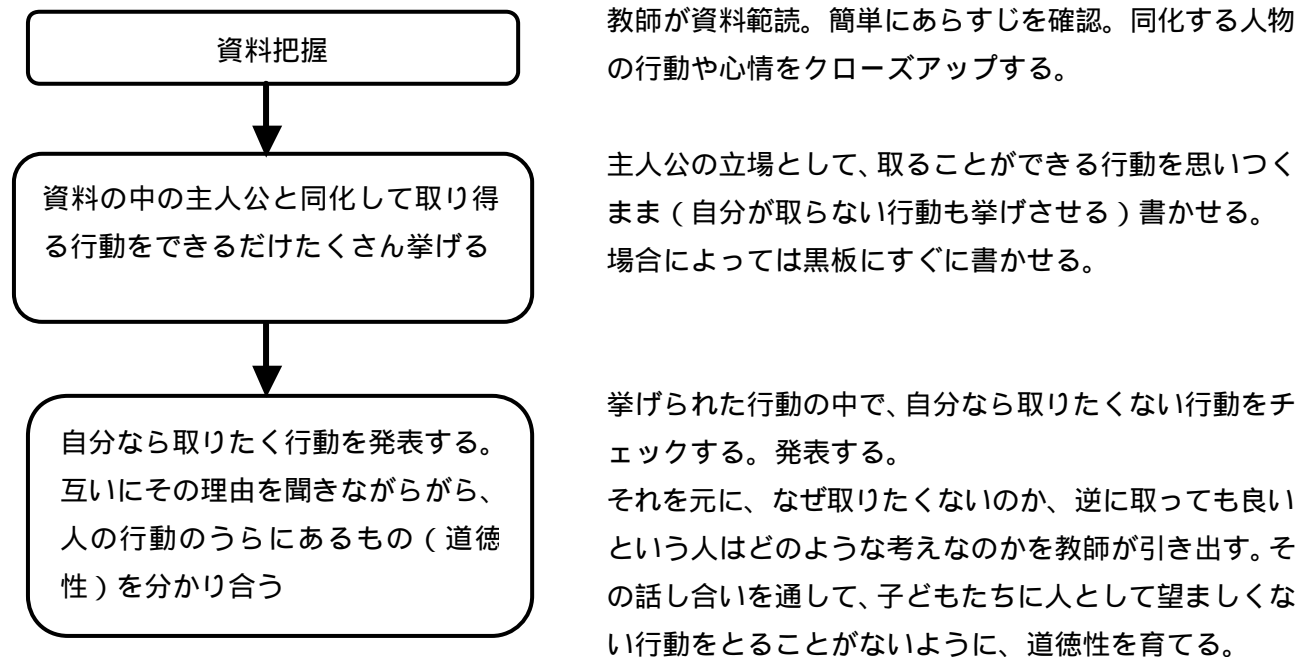
以前からやってみたいと思っている道徳授業のスタイルがある。宇佐美寛氏の理論の具現化である。宇佐美氏は道徳について次のように述べている。

「道徳とは、社会的状況における個人の意志決定である。道徳の時間で学習させるのは、この意志決定の方法である」

宇佐美氏はこの理論に立脚して、道徳の時間の核となる学習活動は「取り得る行動の検討」であるべきだと提言している。

この理論に心が動いた。ぜひ理論の実践化をしてみたいと思った。そこで、今回は宇佐美氏の理論を自分なりにアレンジして「取り得る行動の検討」を主体とした道徳の授業を試みてみたい。

2 「取り得る行動の検討」を主体とした道徳授業の流れ(玉置案)



3 資料のあらすじ 「茂の悩み」

バスケットボール部新キャプテンの2年生、茂が主人公。

これまでの伝統を守るためにも、今回の新人戦はどうしても勝ちたい。これは全員の思い。

先生が決めたレギュラーの中で、正夫の動きが鈍い。練習試合は正夫のせいで負けた。2年生や1年生からキャプテンに正夫と1年生の雄一郎を入れ替えた方が良いという意見が出てきた。

茂は決心をして正夫にレギュラーを下りてもらおうと家に行った。ところが家の近くの公園で、正夫が稔と一緒に一生懸命練習している姿を見た。言えなくなってしまった。

4 本時のねらい

主人公である茂の立場になって取り得る行動をいろいろと考えることができる。
 自分の道徳観に照らし合わせて「取りたくない行動」を挙げることができる。
 他人の考えのよさを分かつたり、自分の判断に生かそうとしたりする。

5 指導過程

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 授業者の道徳の授業観を聞く。	・ いやな人間だけにはならないために道徳の時間での学びがあるのだと語る。
展開	<p><自分の考えを持つ場></p> 2 資料を読む。 3 資料のあらすじを確認する。 4 自分を茂の立場において、取り得る行動を出してみる。	・ 教師が範読する。 ・ 茂の行動と心境を中心に確認する。あまり深入りはしない。 ・ 自由に記述させる。自分が行うかどうかは別にしているいろいろな場合を考えさせる。
	<p><お互いに分かり合う場></p> 5 取り得る行動を発表する。 6 自分なら取りたくない行動を発表し話し合う。	・ 行動に番号をつけて板書する。 ・ 理由を明確に述べさせる。相反する考えを取り上げ検討する。 ・ 意図的指名により、心の動きをとらえ板書する。
終末	7 学びをまとめる。	・ 茂に手紙を書きながら、自分の考えを振り返る。